聲明書

三十萬の八千代生命契約者諸君に市民諸君！私達は昨日まで共存共榮と、大家族主義を強調する八千代生命に、その家族の一員として、眞面目に働いてゐたものであります。（八千代では、社員を家族と呼び、社員名簿には家族名簿と銘打つてあります）

それが、今は、何の理由も無く、何等の豫告も無く、突然この不景氣のどん底にある街頭に放り出され、明日からの生活の方針も立たず、文字通り路頭に迷つてゐるのであります。

それ丈では無い、會社は、その責任を遁れる爲に、新聞紙をかりて私達を、思想上、技術上、健康上の無能力者であると宣傳して、私達の就職の道を絶ち、私達を結婚も出來ぬ破目に陥らせやうとしたのです。

私達は斯うして馘首された

七月十三日と十四日の兩日、八千代生命全社員の健康診斷が行はれました。

その時誰が、そんな陰謀の潜んでゐることに氣付きませう。

ところが十六日、社員達がぼつ〳〵歸り支度にかゝる時分になつて、婦人社員の一部の者に一寸殘つてゐてくれとの命令があつたのです、呼びとめられた者は、何事であらうかと待つてゐると、課長から一人〳〵に依願退社の書類に強制的に捺印させられ、包紙のまゝの慰勞金をおしつけられたのです、か弱い婦人社員達は、すつかり逆上してしまつて、何が何やらわからず、云はるゝまゝに、その包紙を貰つて歸つたのです、それには、少いのは五圓、十圓多いので給料の一ケ月乃至一ケ月半位の涙金が入つてゐました。

次の日には、同じ方法によつて、男子社員が馘首されました。

斯うして、共存共榮と、大家族主義の八千代生命から、一瞬にして放り出された「家族」は八十二名でした。

その日、關專務は、東京朝日新聞の記者に「今回解雇した者は、日給者或ひは月給五十圓以下の者許りで、技術上、思想上、健康上から云つて、誰が眼にも使用に堪へぬ者許りである」と言明したのです。（七月十八日東京朝日第十一頁「八千代生命が突然の社員整理」と題する記事參照）

この關專務の思想上、技術上といふ言葉は何等根據の無いもので、全然責任回避の虚言に過ぎません

會社が、今回の馘首の標準を健康に置いたことは、前記の如くその數日前に全社員の健康診斷をしたこと、馘首の後で、健康診斷に當つた醫務員の一人が「まるで、僕等が首を斬つた樣なものだ」と放言したこと、或若い未婚の婦人社員を妊娠してゐると斷定した程、可成り微細の點にまで診察の行き屆いてゐたこと、甲乙丙、或はXYZ等の符號を用ゐて、健康狀態を區別したこと等によつても判斷されます。

しかも、若し、會社が私達を、今になつて健康上使用に堪えぬ者であるといふなら、なぜ入社の際健康診斷をしなかつたかと云ひたくなります、又入社の時は、健康上使用に堪へる者と診たとすれば私達の不健康は、八千代で働いた爲めに業務上から來た不健康であります、實際私達は健康を害する程會社の爲めに働いてゐたのです、然し私達の生活は、飢餓線から一歩も出ることが出來ずに街上に捨てられたのです、從つて何れにしても、それは馘首の理由には、全然ならないものであります。

會社と交渉の經過

そこで、私達は、直に、一つには自分等の生きて行く可き血路を發見する爲めに、一つには會社の反省を促して、殘留社員の將來の生活の安定を計る爲め、關東俸給生活者組合後援の下に、「八千代生命保險會社交渉團」を組織しました。

而して、私達は先づ左の二要求を會社に迫りました。

一、解雇者の復職

二、新聞記事の取消

（一）に就いては復職は絶對に出來ないが、新しく社員を採用する場合は、今回の馘首者に優先權を與へる

（二）に就いては、關專務は左樣のことを新聞記者に話した記憶は無い、それは朝日新聞記者がいゝ加減の想像で書いたものと思ふから、取消しさせる、といふ回答でありました。

それから、交渉委員と、田村秘書課長との間に、解雇理由について左の如き問答がありました。

問　それでは解雇の理由は何ですか

答　昨年事務の忙しい當時、澤山の社員を採用したが、今では技術も上達して少い人で事足りる樣になつた爲です

問　何人の人を何個月使へば、技術がどれ丈け上達して、何人で事足る樣になるといふ見當をつけて採用したのでは無いのですか

答　さういふ見込は少しも立てゝゐなかつた

問　それでは、無計畫で多數の社員を採用して置いて今度は、無警告で多數の社員を馘首したのですか

答　まあさうです

問　生存保險を七月一日から中止した爲では無いのですか

答　その爲ばかりではない、その準備の爲です

この問答によつて、馘首者を無能力者の如く宣傳したのは、全く會社の責任を逃れんとした奸策であつて、全然馘首者には罪無く、單に會社の都合によつて馘首したものであること、未だ續いて馘首者を出すつもりであることがわかりました。

私達の交渉委員は、それなら、馘首者が就職して、生活の途がつく迄、生活の保障をせよ、それが共存共榮の主旨にも適ひ、大家族主義のモツトーにも違はぬことになるでは無いかと云つたところその樣な漠たる要求では應じかねるも少し具體的要求を出してくれといふので、それでは會社として相當の事をするといふ言明をすれば、具體的要求を示さうといふと今度は、言葉を飜して、會社としては、馘首の責任を果す可き誠意を示さずして、交渉團に加名して居る馘首者の氏名を明示すれば、會社側としての對策を示さうと云ひ出したのです。

この交渉の間に、早くも一週日は過ぎ、何等解決の曙光が現はれませぬので、去る二十四日の第六回會見において、私達の交渉委員は、

一、會社から、直接馘首社員を訪問せぬ事

一、故意に解決の時間を遅延せぬこと

一、絶對に馘首者の個人的理由によらず、全般的對策を講ずること

一、若し右の内の一ケ條にでも違反した場合は、交渉團が如何なる行動に出ても、その責任は會社側にあること

一、飽まで誠意をもつて解決に盡力すること

を、田村秘書課長に言明させ、交渉團に加名せる五十一名の馘首者の氏名を會社側に示したのであります。

共存共榮と大家族主義の虚僞

大家族主義をモツトーとしてゐる八千代生命が、その「家族」であるところの社員八十二名を、時もあらうに、お盆の十六、十七日の兩日に亙つて、理由も無く、暗打同樣に馘首したといふことは、八千代生命の家族主義が、如何に日本の家族主義と相反するものであるかを證明してゐます。

共存共榮を說く八千代生命が、この不景氣、就職難の時代に、關專務の所謂「日給者か或は月給五十圓以下」の一文の貯蓄も出來ない無産社員を、一月や一月半の涙金で解雇したことは、明かに共存共榮の主旨に反するのみならず、之れを無能力者として天下に宣傳したことは、その「家族」を高手小手に縛つて、河原に捨て、烏や犬のつゝくに委せてゐると同樣の非人道的行爲であります。

私達は、かゝる暴虐極まる會社の態度に對し、何處までも抗爭せんとするものであります。

それは、私達自身の人間性を無視した行爲であるばかりでなく、現に八千代に働いてゐる「家族」の人達をも、同じく踏りに見縊つた行爲であります。

昨日まで八千代の社員として、三十萬の契約者と、一般市民諸君に對し、共存共榮、大家族主義を主張して來た私達として、この會社の態度を默視することは出來ないのです。

會社の內幕

私達は、暫らく、會社の內部の解剖に筆を進め、如何に八千代の經營當事者が、無方針、無責任なる經營方法に依つて、今回の大整理の已むなきに至つたか、それが如何に、會社當事者の無誠意と、「無能力」を暴露せるものであるかを明かにしたいと思ふ。

◆

八千代生命は、麹町平河町に八千代分室といふ四階樓の立派な建築物を所有してゐます、それは七十萬圓といふ莫大の工事費をかけたものであるが、この大建築には、丸の內支店の內勤社員十數名が事務をとつて居る丈で二階以上の他の部屋は、社長小原達明氏の住宅に使用されてゐます、そして、本社は帝國火災の粗末なバラツクを月三千圓で借りてゐるのです。（帝國火災の社長も小原達明氏です）

このバラツクは、此間も婦人社員が、暑氣の爲卒倒したこと、又今回の馘首について、『このバラツクでは、弱い人は勤らないのです』と、田村秘書課長が口を滑らしたのでも知れる程不衛生なものであります。

私達は、會社が、何故に此樣な自分の立派な建物を社長小原達明氏の住宅に使用し、何故此樣な粗末なバラツクを、わざ〳〵小原達氏が社長をしてゐる帝國火災から高い家賃で借りて使用せねばならぬのか、その理由を知るに苦しむものであります。

×

會社は、太正十三年度の決算に最早使用出來ぬ宣傳用活動寫眞フイルム什器として三萬圓に計上し、反古同樣の宣傳用小冊子を約十萬圓の資産として計算して、キ務省から摘發されました又昨年末の決算では、拂込資本金の四分の一三十二萬圓は什器として計算されてゐます、之れ等のことは八千代の放漫經營を證據立てるに十分な一例證であります。

×

その貸付金百七十三萬九千圓の中、約七割の百二十萬圓は解散した葛原冷藏、目下問題になつてゐる星製藥及び缺損つゞきの東亞キネマに貸出されてゐますこの不正貸付について、嘗て、社長小原達明氏は、帝國火災と八千代生命の會社員に對し、之れは諸君が、百圓のポケツトマネーの中から一圓を友人に貸した位のものであると言明しました。

契約者から集めた零細な金を、自分のポケツトマネー同樣に取扱はれてはたまつたものではありません。

×

會社は、昨年の暮に、商工省から整理命令を受けました、それは、何回の警告にも拘らず、自ら整理する模樣が見へなかつたからです、その整理命令の要領は左の如きものでありました。

一、新契約募集費、就中宣傳費を節減すること

二、營業費を節減すること

三、事務の整理

四、不正貸付金の回收

五、所有の不良證券の整理

六、責任準備積立金該算八萬圓を補塡すること

七、投資運用の遍在せるを改善すること

一、二については、普通收入保險料に比し約一割でありますのに、八千代は、その倍の四割からに上つてゐたのです。

×

七月一日から、生存保險少年少女保險等は、斷然中止命令を受けたのですが、之れは八千代の契約高の四分の三が、生存保險に依つて占められてゐた爲で、十四年末三億萬圓の契約中二億六十萬までは生存保險で、後の殘り四千萬圓が、養老保險（生命保險）だつたのです。

八千代は二十四時間主義は、實はこの契約者の四分の一に對して實行してゐる丈です、こゝにも宣傳のからくりが、暴露されてゐます。

×

社員の待遇の如きも、賞與は半期毎に、三ケ月分を支給すると稱し乍ら、缺勤一日を二日に見積り、遲刻三回を一日に計算して賞與から差し引いてゐます、之れ等も名を賞與にかりて罰則を設けてゐると同樣であります斯かるきつさ、ぎまんは一々枚擧にいとまが無い位であります。

之れを要するに、今回の大整理を敢行するに至つた原因は、この會社當事者の、無方針、無責任なる放漫經營の結果に外ならないのであります。

我等の覺悟

之れ等の事實は、八千代生命の今回執つた態度が、謀殺的行爲であり、その共存共榮主義、大家族主義が、いかに僞りの看板であるかを證明するばかりでなく、三十萬の契約者は勿論、一般市民諸君を侮蔑し、欺瞞してゐるものでなくて、何でありませう。

私達は、今回の馘首が、何處までも會社の責任であることを明かにし、會社に對し私達の生活の保證を要求すると同時に、この會社の不信行爲を責め、會社當局者をして、悔悟せしめねばやまぬ覺悟であります。

然し乍ら、私達は、この問題を、八千代生命交渉團の問題としてのみ見ることは出來ません、それは崩壞期に在る資本主義の無産階級への挑戰であり、資本集中の過程に於ける無産階級壓迫の一つの現はれであります。

斷末魔に立つた資本家が、今後かゝる或は之れ以上の暴壓なる手段は豫想に難くありません。

今回の爭議の解決如何は、將來頻出す可き此種の資本家對無産俸給生活者の爭議に例を爲すものであります。

此意味からも、私達は、此爭議の解決如何が、我等無産階級の陣營に重大なる影響を有するものであることを知るものです。

私達は、飽までも、われ〳〵俸給生活者の團結の力によつて、われ〳〵の目的の貫徹を期するものであります。

即ち敢て、大方の批判に問ふ可く、こゝに聲明するものであります。

大正十五年七月

東京市麹町區內幸町一ノ五

辯護士上村進方（電話銀座三〇一九）

八千代生命保險會社交渉團本部

後援　日本俸給生活者組合聯盟

關東俸給生活者組合